

有名人物描写のジャンル構造と語彙文法的選択の
特徴およびその日本の英語教育への応用：
ミシェル・オバマの例

水 野 友 貴

Abstract

This paper aims to identify generic characteristics and lexicogrammatical choices of the descriptions of Michelle Obama viewed as a model of a famous public figure, and to propose wider adoption of this approach in English education in Japan from the perspective of systemic functional linguistics (SFL). SFL genre theory provides tools for students and teachers to enrich their understanding of generic structure; a staged construction through which purpose is achieved within a given context of culture. Along with this awareness of generic structure, SFL analyses reveal the importance of lexicogrammatical choices as a means for realizing the current state of a context of situation within a text. This is done by tracing distinctions in register variables of field, tenor, and mode. More specifically, in this study, attention is paid to the ways in which different lexicogrammatical choices are used to construct text types realizing specific differences in the context of situation, for example, SNS user profiles and posts as elements of autobiography, or the Author profile in the book and the First Lady profile on the White House website as texts of biography. The paper ends with a discussion of the usefulness of using SFL methods in English education in Japan. If applied in class to authentic textual materials on familiar topics, they could have the meaningful effect of raising students' awareness of patterns of generic structure and lexico-grammatical choices whose knowledge will be useful in the real world outside of the classroom.

Keywords: Systemic Functional Linguistics (SFL), functional grammar, genre, generic structure, register, lexicogrammar, Michelle Obama

キーワード：選択体系機能言語学、機能文法、ジャンル、ジャンル構造、レジスター(言語使用域)、語彙文法、ミシェル・オバマ

1. はじめに

学校教育においては、各教科において新しい知識を構築し、学習内容を描写、説明、報告、論証することによって知識の定着が評価される。そして、これらの学習活動は主に言語を通じて行われる。しかしながら、学習目標を達成し、高く評価されるためのテキストを構築するために必要な語彙や文法などの言語的特徴に関する説明は十分されていないことが多く、学習者が段階的に言語を発達させるためのジャンルの概念に基づいた言語教育の重要性が指摘されている (Halliday & Hasan, 1985; Christie, 1985; Derewianka, 2003; Schleppegrell, 2004; Martin & Rose, 2008)。

筆者の担当する大学1、2年生の教養必須科目で使用する多くの英作文教科書には、過去の体験を語る「再話」、人物や事象の「描写」、レシピなどの「手順」、一連の事実の「報告」、データ分析などの事象の「説明」、自分の視点を提示し事例や証拠で裏付ける「論証」などが各単元のトピックとして取り上げられている。学習が進むにつれて作文内容の難易度は高くなるが、パラグラフライティングに必要な「序論、本論、結論」や「主題文、支持文、結論文」のようなパラグラフ構造に関する項目の説明があるのに対し、各トピックの目標を達成するために必要な段階の展開であるジャンル構造や語彙文法的特徴に関しては詳細に説明されていないことが多い。海外では、学校教育のコンテキストにおけるジャンルについて、文レベルでの統語構造だけではなく、テキスト全体のレベルから意味が構築される方法に焦点を当てた SFL 的教育アプロ

ーチが実践され、報告されている (Derewianka, 2003; Schleppegrell, 2004; Martin & Rose, 2008; Christie, 2017)。また、日本の大学においても、SFL 理論を応用した英語教育の有効性が多くの研究によって検証されている (佐々木, 2006a, 2006b, 2009; 早川, 2008; Washitake, 2021)。

本稿では、第44代アメリカ合衆国大統領バラク・オバマの妻であり、アフリカ系アメリカ人初のファーストレディであるミシェル・オバマの例を用いて、有名人物描写の書記のテキストを選択体系機能言語学 (Systemic Functional Linguistics、以下適宜 SFL と呼ぶ) を鍵概念として、ある特定の目的を達成するために必要な段階的なテキストの展開方法であるジャンル構造とコンテキストにおける言語資源の選択の特徴であるレジスター (言語使用域) における語彙文法的特徴を検証する。SFL 的視点から、学習者と教員が実社会で使用されている英語を新たな角度から見るための気づきを共有し、言語的特徴を明示することによって、英語のリテラシー能力を発達させるための足場として日本の英語教育における応用の有効性を考察する。

2. SFL 理論におけるジャンルとレジスター

本稿の鍵概念となる SFL 理論は、社会の中で使用される言語について、テキストが生成される文化的、社会的コンテキストと関連づけて、話し手と聞き手の相互作用としてテキストを機能文法の視点から分析することによって、テキストの質を理解するための言語への機能意味論的枠組みである (Halliday, 1994; Eggins, 2004; 龍城, 2006)。ハリデー (1994) は、機能文法の目的はテキスト分析を目的とした文法を構築することであり、近代英語の口頭または書記のすべてのテキストについて意味のある有益な点を見出すことを可能にする社会的意味論的および社会記号論的

なものであると言及している。

SFL 理論では、テキストは可能な限り始まりから終わりまでの完全な言語的相互作用を意味し、共通点のある本物のテキストをさまざまな視点から分析し、比較することによって言語使用の興味深い側面を浮き彫りにするためのツールを提供する。読んだり聞いたりするテキスト内の言語パターンからコンテキストを推測したり、特定のコンテキストに適した言語パターンを選択して書いたり話したりすることができるのは、「コンテキストはテキスト内にあり (*Context is in text*)、言語とコンテキストは相関関係にある (Eggins, 2004: 7)。」という言語とコンテキストの不可分性を裏付けるものである。

SFL 的分析によって、言語使用に影響を与えるコンテキストを、言語活動の「文化のコンテキスト」が具現するジャンルと、言語活動の直接の「状況のコンテキスト」の側面が具現されるレジスターの2つの概念から明示することができる。SFL 理論におけるジャンルとは、段階的および目標志向的に展開される社会的過程であり、繰り返される意味構成であるジャンル構造によって、特定の文化において目標を達成させるために発達した社会的慣習である。日常生活のさまざまな場面において予測可能な反復的言語パターンを使用することによって、日常的な買い物やレシピなどのジャンルから専門分野における報告や演説など、ある特定の社会的集団や文化における状況においてジャンル構造として期待される話の段階的な展開を認識することによって、適切に応答することができる (Derewianka, 2003: 135)。ジャンルについて、Martin & Rose (2008) は、以下のように言及している。

...we characterized genres as staged, goal oriented social processes. Staged, because it usually takes us more than one step to reach our goals; goal oriented because we feel frustrated if we don't accomplish the final

steps; social because writers shape their texts for readers of particular kinds...genres are defined as recurrent configuration of meanings and that these recurrent configurations of meaning enact social practices of a given culture (Martin & Rose, 2008: 6).

文化のコンテクストに含まれるジャンルが、状況のコンテクストにおいて具現されるレジスターは、活動領域 (field)、役割関係 (tenor)、伝達様式 (mode) の3つの側面において語彙文法的選択が変化し、意味が生成される。活動領域では、「誰が、誰に対して、どの状況において、何をするのか」を表す観念構成的メタ機能として①経験的意味 (experiential meaning)、役割関係では、やり取りの種類や話者の距離感や力関係、話者の立場を表す対人的メタ機能として②対人的意味 (interpersonal meaning)、そして伝達様式では、「何についてのメッセージなのか」を表すテキスト形成的メタ機能として③テキスト形成的意味 (textual meaning) の3つの意味によって同時に状況のコンテクストが具現されるのである。この3つの意味の機能的側面からテキストを分析することによって、社会で実際に使用される言語のコンテクストとテキストが密接な関係性を持っていることを示すことが可能となる。

学校教育のジャンルには、経時的再話 (recount)、物語 (narrative) のような私的ジャンルと、手順 (procedure)、報告 (report)、因果的説明 (account)、説明 (explanation)、論証 (exposition)、議論 (discussion) などの事実に基づくジャンルがある。高学年につれて難易度が高くなるのは学習内容の高度化だけでなく、語彙文法資源の選択によるテキスト構造自体が複雑化するためであり、各ジャンルにおけるジャンル構造と言語の特徴に関する知識が学習者のリテラシー能力の発達に有益であることが指摘されている (Butt, et al., 1994; Schleppegrell, 2004; Martin & Rose, 2008)。次項では、ミシェル・オバマを例にして「報告」ジャンル

としての有名人物描写のジャンル構造と言語的特徴について考察する。

3. 「報告」ジャンルとしての有名人物描写：ミシェル・オバマの例

人物や事象に関する正確な情報を客観的に提供するために、分類すること、描写することが「報告」ジャンルの特徴である (Schlepppegrell, 2004)。たとえば、有名人物の略歴では、ある有名人物に関する事実としての情報を提供するという目的があり、必須の情報が段階的に展開されることによって目標が達成される。典型的に含まれる必須情報は、話し手を通じて分類されたり、描写されたりすることによってテキストとして客観的な現実として具現される。自己描写である SNS サイトのプロフィールや投稿文と、他者による描写である著者紹介や公式ウェブサイト内の人物来歴における共通の必須情報を検証するために、ミシェル・オバマの人物描写のジャンル構造を以下に比較する。

3.1.1 SNS ユーザーのプロフィール

SNS ユーザープロフィールの目的の一つは、不特定多数の SNS 閲覧者に対して、アカウント所有者自身を描写し、情報を発信することによって SNS 参加者が意見交換することを可能にするコミュニティをつくることである。SNS サイトのプロフィールではユーザーが当該アカウントのフォロワー層を意識した情報が含まれるだろう。ミシェル・オバマの Facebook、Instagram、Twitter におけるプロフィールは共通して以下のプロフィール内容となっている。



前記の Instagram の例にみられるように、SNS のプロフィールは文ではなく名詞で統一された語句で簡潔に記述されている。自分による人物描写であり、出身背景 (Girl from the South Side)、歴史的功績 (former First Lady)、婚姻歴 (Wife)、子の存在 (mother)、趣味 (dog lover)、性格 (Always hugger-in-chief) という情報が提供されている。プロフィールの英語 15 語で、自分がサウスサイドの労働階級家庭に育ち、元大統領を夫とし、(2 人の娘を持つ) 母であり、犬好きであり、ハグが大好きな愛情深く、人懐っこい人柄であるということを描写している。通常、人柄を描写するためには friendly, affectionate などの形容詞が使用されることが多いが、名詞で統一するために比喩的な表現として hugger-in-chief (ハグ最高司令官) と表現されていることに注目したい。また、これらの情報は、書き手本人によって選択された自己描写の情報であり、後述のテキストと比較することによって、有名人物の描写における必須要素と選択的要素を認識することができる。

3.1.2 インスタグラム投稿における自己描写

SNS サイトの投稿では、読み手に対してさまざまなメッセージが発信される。ミシェル・オバマの回想録である著書『Becoming (2018)』(邦題『マイ・ストーリー』) の発売を宣伝発表するためのインスタグラム投稿 (2018 年 9 月 13 日) の冒頭の部分において、彼女自身についてテ

クスト1のよう述べている。^{1,2,3,...}は、文番号を示す。

テキスト1

¹I'm from the South Side of Chicago. ²I went to Princeton and Harvard. ³I'm a wife, a mother, a daughter, and a sister. ⁴I've been a lawyer, a non-profit leader, a hospital executive, and First Lady of the United States.

(以下省略)

ミシェル・オバマはテキスト1に続けて、これらの情報は、『誰もが自分のストーリーを語る時にデフォルトのように思っている簡略化された便宜上の標準的な情報“stats”である。』と後述している。略歴が“stats”である一方で、回想録では、労働階級ではあったが中流階級ともいえる家庭環境、家族、大学進学、就職、夫との出会い、娘の誕生、社会貢献活動、そして現況に至るまでの彼女の人生が事細かに描写されており、書籍の購入を読み手に促すための投稿である。本人による自己描写であるが、SNS投稿は読み手に情報を提供する目的に加えて、行動を促す目的もあり、文で投稿しなければ意味を伝えることができない。反対に、SNSプロフィールは、標準的な情報であり、文で記述された場合、読み手は違和感をもつだろう。また、必須情報が含まれていない場合は物足りなさを感じるであろう。

テキスト1の目的は、「自分の略歴に関する情報提供」である。前述のSNSプロフィールと比較することによって、この目的を達成するための必須情報を文として表現するときの展開の順序を明示することができる。ジャンル構造の記述の凡例(X ^ Y : 段階Xは段階Yに先行する)を用いて、テキスト1のジャンル構造を以下に記述する。

テキスト1のジャンル構造

出身地 ^ 学歴 ^ 婚姻歴 ^ 子の存在 ^ 現況 ^ 職歴 ^ 歴史的功績

3.2 著者紹介における人物描写

次に、他者による有名人物描写の例として、ミシェル・オバマ著『Becoming』の著者紹介をテキスト2に記す。著者紹介の目的は、「著者の功績や背景などの略歴を伝える」ことである。テキスト1とテキスト2のジャンル構造と比較することによって、歴史的功績、学歴、職歴、婚姻歴、子の存在が必須情報であり、名前、出身地、社会的活動、家族の現況、現在の血縁家族構成が選択的情報であることが示唆される。

テキスト2

¹MICHELLE ROBINSON OBAMA *served* as First Lady of the United States of America from 2009 to 2017. ²A graduate of Princeton University and Harvard Law School, Mrs. Obama *started* her career as an attorney at the Chicago law firm Sidley & Austin, where she *met* her future husband, Barack Obama. ³She later *worked* in the Chicago mayor's office, at the University of Chicago, and at the University of Chicago Medical Center. ⁴Mrs. Obama also *founded* the Chicago chapter of Public Allies, and organiza-tion that *prepares* young people for careers in public service.

⁵The Obamas currently *live* in Washington, D.C., and *have* two daughters, Malia and Sasha.

テキスト2のジャンル構造

名前 ^ 歴史的功績 ^ 学歴 ^ 職歴 ^ 婚姻歴 ^ 職歴 ^ 社会的活動 ^ 家族の現況 ^ 子の存在

3.3 公式ホームページにおける歴史的人物描写

最後に、異なるコンテキストにおける他者による人物描写の例として、アメリカ合衆国ホワイトハウスのウェブサイト内のファーストレディの略歴であるテキスト3を以下に記す。テキスト3は、F. Freidel and H. Sidey 著『The Presidents of the United States of America (2006)』からの抜粋であることが、文末に記載されている。

テキスト3

¹First Lady Michelle LaVaughn Robinson Obama *is* a lawyer, writer, and the wife of the 44th President, Barack Obama. ²She *is* the first African-American First Lady of the United States. ³Through her four main initiatives, she *has become* a role model for women and an advocate for healthy families, service members and their families, higher education, and international adolescent girls education.

⁴Each of us also *comes* here tonight,” Michelle Obama *told* the Democratic National Convention in 2008, “by way of our own improbable journey” and “*driven* by a simple belief that . . . we *have* an obligation to fight for the world as it *should be*.” ⁵Michelle Obama’s journey *began* in the South Side of Chicago, where Fraser and Marian Robinson *instilled* in their daughter a heartfelt commitment to family, hard work, and education.

⁶Her father *was* a pump operator for the Chicago Water Department, while her mother *stayed* at home to *care* for Michelle and her older brother Craig. ⁷As she *watched* her father *refuse* to *give in* to multiple sclerosis, *use* two canes to *get* to his job, and *save* money to *send* her to college, she *learned* that “the only limit to the height of your achievements *is* the reach of your dreams and your

willingness to **work** hard for them.”

⁸Michelle **earned** a bachelor’s degree from Princeton University and a juris doctor degree from Harvard Law School. ⁹In 1988, she **returned** to Chicago to **join** the firm of Sidley Austin. ¹⁰It **was** there **that** she **met** Barack Obama, a summer associate **she was assigned to advise**. ¹¹They **were married** in 1992.

¹²By that time Michelle **had turned** her energies to public service. ¹³She **was** assistant commissioner of planning and development in Chicago’s City Hall before **becoming** the **founding** executive director of the Chicago chapter of Public Allies, an AmeriCorps program that **prepares** young people for public service.

¹⁴In 1996, she **joined** the University of Chicago as associate dean of student services, **where she developed** the university’s first community service program.

¹⁵In 2002, she **went** to work for the University of Chicago Medical Center, **where in 2005 she became** the vice president of community and external affairs.

¹⁶During these years the Obamas’ daughters Malia and Sasha **were born**.

(以下省略)

テキスト3の目的は、アメリカの歴史の一部としてファーストレディという「歴史的人物に関する記録を伝えること」である。テキスト3のジャンル構造を以下に示す。

テキスト3のジャンル構造

敬称 ^ 名前 ^ 歴史的功績 ^ 出身家族背景 ^ 学歴 ^ 職歴 ^ 婚姻歴 ^ 社会的活動 ^ 子の存在

テキスト3は、段階毎に詳細な情報が提供され、複数のパラグラフで構成されているという点で、テキスト1とテキスト2とは異なる。3つのテキストにおける必須要素と選択的要素を比較することによって、有名人物描写のジャンル構造は以下のように示唆される。

有名人物描写のジャンル構造

(敬称)^名前^歴史的功績{(出身背景)*学歴^職歴*婚姻歴*社会的活動*子の存在^(現況)}

ジャンル構造の記述の凡例 (Eggins, 2004: 64; 龍城, 2006: 31)

X ^ Y : 段階Xは段階Yに先行する

* Y : Yは順序づけられていない(前後しうる)段階である

{X * Y} : 段階Yは { } の範囲内で前後しうる

表1に示されるように、同じ人物について異なるコンテキストにおい

表1 テキスト1、2、3のジャンル構造の要素の比較

段階要素	テキスト1	テキスト2	テキスト3
	SNS 投稿	著者紹介	歴史的人物描
敬称			○
名前		○	○
歴史的功績	○	○	○
出身背景	○		○
学歴	○	○	○
職歴	○	○	○
婚姻歴	○	○	○
社会的活動		○	○
子の存在	○	○	○
現況		○	

て具現されるジャンル構造を比較することによって、異なった場面において、どのような段階が必要なかを明示することができる。自己紹介や身近な人物の描写とは区別して、有名人物を描写するために必要な情報を提供する段階の順序を示す典型的なジャンル構造や、選択的な段階について学習者が理解するために役立つ知識となるにちがいない。しかしながら、ジャンル構造が正しくても、テキストの語彙文法の選択が適切でなければ、読み手の期待を満たすテキストは完成できない。次項では、各テキストの語彙文法的特徴を SFL のレジスターの概念から検証する。

4. 有名人物描写の語彙文法的特徴

SFL 理論は、コンテキストと語彙文法資源の両方の側面からテキスト分析するためのさまざまなツールを提供している。本項では、テキスト 2 とテキスト 3 のようにジャンル構造が類似している場合でも、それぞれの状況のコンテキストを具現するレジスターの 3 つ変動要素である活動領域、役割関係、伝達様式がどのように異なるのかを語彙文法の観点から考察する。

4.1 テキスト 2 とテキスト 3 の活動領域

活動領域において「何が話されているのか」を具現する経験的意味は、観念構成的機能によって参与要素、過程中核部、状況要素をもつ過程構成 (transitivity) によって具現される。過程構成は、世界や経験について、出来事を認識したり経験したりすることについての意味である経験的意味を記号化したものと考えられる (Eggins, 2004)。典型的に参与要素は名詞群、過程中核部は動詞群、状況要素は副詞群および前置詞句で具現

される。過程型は意味によって物質過程、行動過程、心理過程、発言過程、関係過程、存在過程の6つの過程型に分類される。以下にテキスト3とテキスト4の最初の文の過程構成の分析例を示し、比較する。

テキスト2 (1) の過程構成

Michelle Robinson Obama	served	as First Lady of the United States of America	from 2009 to 2017.
行為者	過程中核部： 物質過程	状況要素：役割	状況要素： 期間（時間）

テキスト3 (1) の過程構成

First Lady Michelle La Vaughn Robinson Obama	is	a lawyer, writer, and the wife of the 44th President, Barack Obama.
被同定者	過程中核部： 関係過程	同定者

テキスト2 (1) の過程中核部は物理的な働きをする「物質過程」であり、「任期を務める (serve)」という行為を具現している。行為者 (Actor) である Michelle Robinson Obama と、役割と期間を示す状況要素によって具現されている。一方、テキスト3 (1) の過程中核部は2つの事物の間の関係を描写する「関係過程」であり、be 動詞を介して同定者 (identifier) と被同定者 (identified) の関係を具現している。表2に示されるように、テキスト2の過程中核部はすべて物質的であることから、「著者が何をしたか」を事実化することに重点がおかれていることが示唆される。

表2に示されるように過程中核部の分析によって、「報告」のジャンルでは、活動を説明し事実化することに重点がおかれる「物質過程」の節と一般化された事実を同定する「関係過程」の節が多いことを明示することができる。英語教育においては、字義的な意味だけでなく、経験的観点から、各ジャンルのテキストの言語的特徴とコンテキストを紐付

表2 テキスト1 / 2 / 3の過程中核部

	テキスト1	テキスト2	テキスト3
物質過程	1 (25%)	8 (100%)	18 (60%)
関係過程	3 (75%)	0	10 (33%)
行動過程	0	0	1
発言過程	0	0	1
心理過程	0	0	1
存在過程	0	0	0
計	4	8	31

けて理解するための有益な知識となるだろう。テキスト1、2、3の過程中核部は太字で示されている。

4.2 テキスト2、テキスト3の役割関係

次に、状況のコンテキストの役割関係では、対人的機能によって話し手と聞き手の役割や距離感、力関係、事物や情報を付与するのか要求するのか、情報伝達の態度などが対人的意味として具現される。SFLの役割関係の分析では、主語 (Subject) と定性 (Finite) を含む叙法部 (Mood) とそれ以外の部分を残余部 (Residue) とする。助動詞によって操作される定性によって、話し手が述べる命題 (叙法部) の時制、あるいは話し手が述べる命題に対する態度の度合いが示される。テキスト1、2、3の定性は太字イタリックで示されている。テキスト2とテキスト3の最初の文の叙法構造を以下に示す。

テキスト2 (1) の叙法構造

Michelle Robinson Obama	<i>served</i>		as First Lady of the United States of America from 2009 to 2017.
主語	定性	述部	
叙法部			残余部

テキスト 3 (1) の叙法構造

First Lady Michelle LaVaughn Robinson Obama	<i>is</i>	a lawyer, writer, and the wife of the 44th President, Barack Obama.
主語	定性	
叙法部		残余部

定性においては、テキスト 2 (1) の場合、統語構造における述語動詞 *served* は、定性として過去であることを意味する助動詞 *did* と、述部 (Predicator) としての過程中核部の *serve* が融合している。また、テキスト 3 (1) では、定性 *is* は、命題が現在の事実を意味することを示している。叙法構造では、話し手がミシェル・オバマについての情報を聞き手に提供していることが、主語 ^ 定性の順番の叙述として具現されている。一方、話し手が事物を要求している場合は、定性 ^ 主語の順番となり疑問となる。上記 3 つのテキストの定性に注目することによって、現在形が一般的事実を記述するために、過去形が過去の事実を記録するために、そして、叙述文が権威的な姿勢で事実情報を伝えるためにそれぞれ機能することによって「報告」のジャンルが具現されていることを、経験的意味とは別の対人的意味の観点から明示することができる。

4.3 テキスト 2、テキスト 3 の伝達様式

最後に、状況のコンテキストの伝達様式では、テキスト形成的機能によって単語や節の配列の交替によってテキスト全体の首尾一貫性を構成するために重要なテキスト形成的意味が具現される。各テキスト、各パラグラフ、各節の最初の位置である主題 (Theme) は話し手が出発点として何を伝えたいかを示すための道標となり、題述 (Rheme) はその意味の方向性を示す目的地であると考えられる。話し手が伝えたい内容を効果的に伝えるためのテキスト形成的機能は、SFL を日本の英語教育へ応用する際に最も有効な側面の一つであるといえよう。

テキスト2(1)では、以下に示す(a)、(b)のように書きかえることが可能である。文法的に正確であり、話し手が伝えたい内容は変わらないが、文頭に具現する要素は話し手にとって最も大切な内容であることから、(a)は主題であるミシェル・オバマという人物に焦点があてられており、最後の文のThe Obamasを除く全ての主題が同一人物となっている。これに対して(b)のように主題が「2009年から2017年まで」になる場合、時間軸を中心にテキストが構成されることが予測できる。また、(a)のように、叙法構造における主語が主題となる場合を無標、(b)のように、状況付加詞が主題となる場合を有標と分析することによって、聞き手のある特定の語句に注目させ、わかりやすく結束性のあるテキストをつくりだしたり、話し手視点に導いたりする方法に注目することができる。

テキスト2(1)の主題構造の比較

(a)

Michelle Robinson Obama	served as First Lady of the United States of America from 2009 to 2017.
話題的主题	題述

(b)

From 2009 to 2017	Michelle Robinson Obama	served as First Lady of the United States of America.
テキスト形成的主题	話題的主题	題述
主题		題述

テキスト1、2、3の主題分析によって、テキスト1とテキスト2の主題は一貫して著者であるミシェル・オバマである(無標)であるのに対し、テキスト3では、歴史的人物の来歴として、9文目にIn 1988,を主題(有標)とすることによって、職歴について時間設定に基づいたテキスト構造を可能にしていることが注目される。「報告」のジャンルとして、ミシェル・オバマに関する事実の報告としてテキストを形成し、話題的

主題であるミシェル・オバマに関する情報を題述において紹介していることが特徴づけられる。

Martin & Rose (2008; 99-105) は、自伝 (autobiography) では、接続詞によって一連の出来事が連続した時間の中で表現されるのに対して、伝記 (biography) では、歴史的事実の正確性を重視するため状況要素によって時間や場所が設定され、主題において話し手が何を軸にして話しているかが具現される特徴があることを指摘している。また、伝記では、接続詞を使わず、名詞化によって節内で因果関係が暗示的に具現されること、自伝が個人的評価であるのに対し、伝記は公的な意味を持っており、功績に注目していることなどの特徴が言及されている。学校教育の「報告」や「説明」のジャンルである歴史では自伝から伝記へ、そして歴史的再話へとテキストの語彙文法的資源が高度化する。有名人物描写は自伝や伝記のように、有名人物の略歴や功績を歴史的事実として記録する目的をもつジャンルであると考えられよう。身近な有名人の描写のジャンル構造や語彙文法的特徴に関する知識は、英語学習者にとって、さらに複雑化するテキスト構成を理解するための土台となるであろう。

また、英語教育において、主題と題述という概念は、書き手が何に焦点を当ててテキストを構成しているかを理解する読解力、読み手に対してわかりやすい首尾一貫性のあるテキスト構成を意識する作文力の向上のために重要な知識である。加えて、難易度の高い専門的なテキスト構成における名詞化などの文法的特徴を理解するための基礎となり、英語学習者にとって非常に有益な知識となるに違いない。

5. おわりに—英語教育での応用と今後の展望

SFL 理論を応用したジャンルに基づいたアプローチは、言語使用は目標志向であるという前提から始まり、テキスト全体の意味づくりを強調する。実社会で使用されている本物のテキストを使用した指導や、学習者との共同作業による気づきによって、ジャンル構造やレジスターを認識し、単語や文の字義的な意味や文法の正確性だけでなく、テキストの語彙文法資源の選択によるテキスト構造やテキストに埋め込まれた文化的、社会的な言外の意味やイデオロギーを理解するためのクリティカルリテラシー能力を発達させることできる。

このように、教員は社会で使用されている言語について、SFL 的視点からジャンル構造と語彙文法的特徴を顕在化させることによって、テキストとコンテキストの不可分性を学習者に明示することが可能である。学習者は、その知識にもとづいて、内容を予測しながらテキストを読み取る力や特定の目的を達成するために必要な段階を適切に展開し、適切な語彙文法資源を選択して読み手の期待を満たすテキストを書く力を発達させることが期待できる。さらに、異言語、異文化への興味を深め、英語だけでなく母語を含む言語力を涵養することによって、言語を通じて人生を豊かにすることが外国語教育の真髄といえよう。

本稿では、ミシェル・オバマの例を用いて、有名人物の描写について、実在のテキストの中から異なるコンテキストにおけるジャンル構造とレジスターの言語的特徴を検証した。SFL 理論に基づいた分析によって、有名人物の描写という文化のコンテキストを具現するジャンル構造、また、SNS のプロフィールおよび投稿、著者紹介、公式ウェブサイトの歴史的人物の略歴というそれぞれの状況のコンテキストを具現する語彙文法資源の言語的特徴を顕在化させることができたといえよう。今後の研究においては、ミシェル・オバマの演説、インタビュー、ポッドキャ

ストなどを題材とした SFL 的分析によって英語教育での応用をさらに探求したい。

参考文献

- 佐々木真 (2006a) 「英語の文法的比喻とその英語教育への応用について」『愛知学院大学短期大学部研究紀要』第14号, 47～61頁
- 佐々木真 (2006b) 「ことばを教える」『ことばは生きている』龍城 正明編, くろしお出版, 135～154頁
- 佐々木真 (2009) 「日本における SFL の英語教育への応用: 5 文型と be 動詞を中心として」『Proceedings of JASFL Vol. 3』, 73～84頁, 日本機能言語学会
- 龍城正明 (編) (2006) 『ことばは生きている 選択体系機能言語学序説』くろしお出版
- 早川知江 (2008) 「英語教育におけるジャンルと過程型」『Proceedings of JASFL Vol. 2』, 67～82頁, 日本機能言語学会
- Butt, D. et al. (2000) *Using Functional Grammar 2nd ed.* National Center for English Language Teaching and Research Macquarie University.
- Christie, F. (1985) *Language education.* Dealing University. Oxford University Press.
- Christie, F. (2017) (S. Wortham et al. (Eds), *Discourse and Education, Encyclopedia of Language and Education*) *Genres and Institutions: Functional Perspectives on Educational Discourse (pp.29-40).* Switzerland: Springer.
- Derewianka, B. (2003) Trends and Issues in Genre-Based Approaches. *RELC Journal* 34. 2: 133-154, ISSN 0033-6882
- Eggs, S. (2004) *An Introduction to Systemic Functional Linguistics 2nd ed.* London: Bloomsbury.
- Friedel, F. and Sidey, H. (2006) *The Presidents of the United States of America.* London: Scala.
- Halliday, M. A. K. (1994) *An Introduction to Functional Grammar 2nd ed.* London: Edward Arnold.
- Halliday, M. A. K. & Hasan, R. (1985) *Language, context and text: Aspects of language in a social-semiotic perspective.* Geelong: Deakin University Press.

- Johns, A. (ed.) (2002) *Genre in the Classroom*. New Jersey: Lawrence Erlbaum.
- Martin, J. R. & Rose, D. (2008) *Genre Relations Mapping Culture*. London: Equinox.
- McCabe, A. (2017) *An Introduction to Linguistics and Language Studies 2nd ed.* Sheffield: Equinox.
- Obama, M. (2018) *Becoming*. New York: Crown.
- Washitake, M. (2021) Toward Academic Reading (I): From General Reading to Research Papers in Cell Biology. *Foreign Languages & Literature* Vol. 46 No. 1, pp. 3–24, Aichigakuin University.
- Schleppegrell, M. J. (2004) *The Language of Schooling A Functional Linguistics Perspective*. New York and London: Routledge.
- <https://www.whitehouse.gov/about-the-white-house/first-families/michelle-obama/>
- <https://www.instagram.com/michelleobama/>
- <https://en-gb.facebook.com/michelleobama>
- <https://twitter.com/michelleobama>
- <https://www.instagram.com/explore/tags/iambecoming/>